

特集：秋季大会のめざすもの

菊薫る(?)11月26、27日、秋季大会は大阪府堺市の大阪女子大学で開催することになりました。日本の女たちの解放、フェミニズムの前進のために、幹事会では、数年来漸次弱体化してきた全国学会会員唯一の集いの場である大会を活性化したいと2度にわたり大激論をしました。プログラムを御覧ください。シンポジウムが尻切れトンボにならないように二日目に十分な時間をとりました。ここ数回連続でかかげてきた「日本の文化的土壌とフェミニズム」についても、そろそろまとまったとりくみをすべき時期であるとの認識のもとにあらためて「いま、ここでのフェミニズムとは何か?」「何をしていくべきか?」を探りたいと思います。少ないチャンスを有効に生かすため是非ご参加ください。堺でお会いしましょう!!

“フェミニズム”の原点へ

日本女性学会は、1986年より「日本の文化的土壌とフェミニズム」をテーマに、シリーズで、第1回「フェミニズムを阻むものは何か」に始まり、第2回秋季大会「不払い労働を考える」、第3回1987年春季大会「女のセクシュアリティ——“生”と“性”」、第4回秋季大会「今、女性学を見直す」、そして第5回は1988年春季大会「視覚イメージの政治学」と継続して関連したシンポジウム、セミナーを行なってきました。

その目的は、第1回のテーマが示すように日本的文化的土壌の中でフェミニズムを阻む要因は何かを明らかにすることだったと思います。医学や歴史学、文学、芸術などさまざまな分野から興味深い提起がなされながらも、「時間切れ」という実際の大会運営の問題ともからんで、充分な議論が尽くされぬままに、残念ながら全体としては、混沌とした状況に陥っています。

そこで今回新しいメンバーで始まった幹事会では、2回にわたる研究会でこのことを反省し、問題点を話し合いました。その結果今回のテーマのように今一度「フェミニズムの原点に立ち戻って」考えることに共通の認識を得ました。

1970年に始まったウーマンリブの世界的な運動の中から女性学は成長してきました。1975年から1985年までの「国

連婦人の十年」を経過するなかで、世界の女たち、日本の女たちはどう変わっていったのか、どう変わらなかったのか。何が進み、何について取り組みが遅れているのか、残された問題点は何か、今やと整理する時期がきたと思います。時代はひとめぐりし、私達は「いま、ここで、ひとりひとり」の女が解放されていくような自前の思想をもつことの必要性を痛感します。今回のシンポジウムは、このような思いで、会員の田嶋陽子、船橋邦子、國信潤子が、それぞれの生きざま、自分の立脚するところから自分の肉体を通じて得た“フェミニズム”を思う存分語ってみようということになりました。同時に、自分史にとどまらず既成のフェミニズム理論に対するプラス、マイナス両面の評価へとつながっていくものや、さらには、参加者全員での活発な討論で、今後の日本のフェミニズムの方向性をより明確にしていけるような、そんな場にしたいと考えています。

ひとりでも多くの会員、非会員がこの時間、空間を共有して新しいフェミニズムの出発のために熱い思いを寄せてくださることを期待します。

秋季大会研究発表のレジメ

セクシュアリティの深層

河野貴代美(フェミニストセラピー“なかま”)

セクシュアリティに関して、実にたくさんの出版物が出ています。いわゆるジェンダー論(記号論などを含め)とか、性教育(知識教育)の観点とか、性文化批判(反ポルノ等)など、これらの中で、もうひとつ私に見えて来ないものがあります。それは性の自律-自立と解放はどういう関係にあるのか、ということです。例えば、イヤな時イヤというの、イイ時にイイということにつながるのだろうか…。もう1つは、性のモノ化-商品化を撃って、ではどのような性の沃野が広がるのか。よく聞く言説は、人格化(愛)ですが、ここにはロマンチック・ラブの陥穽があります。これらに関して、性幻想、関わりのイメージをキーに、たくさんの女性へのインタビューをもとに考えてみたいと思います。

- ①女性における性幻想について、
- ②対他関係(いわゆる異性愛、同性愛など)、対自関係(マスターベーション)の性幻想とその分析、
- ③いわゆる性偏寄について、
- ④いわゆる“性の自立”

女性と開発

田中由布子

第三世界ショップ、シャプラニール、アジア民間交流グループなど、開発の問題に取り組んでいる団体は、いくつかある。発展途上国の人々の生活に焦点をあて、商品の販売、生産などに力を貸し、自立の道をさぐろうとするものである。同様の考え方で、発展途上国の女性の問題にエネルギーの多くを注いでいる団体として、アジアの女たちの会、滞日アジア女性の問題を考える会、アジア女子労働者交流センターなどある。

女性解放運動には、いろいろな方法があるが、第三世界の女性のみならず、先進資本主義諸国においても、女性の解放の課題は、組合活動や労働立法とともに、生産・交換・分配・消費の現場で、いかに主体を回復するかということにある。

開発問題の中に、女性の「世界史的勝利」の道筋を辿ってみたい。

隠された遺産——女性芸術家の歴史

深沢純子

人が生き方を模索していく時に、理想形やモデルがあるかどうかによって、幾分葛藤のありようは変わってくる。女性の自立した造形芸術家は数少なく、また資料も少なかったが、フェミニスト美術史家の功績で、「知られざる作家」が明らかになってきた。彼女らのことを知

ると、むしろ予想を越える数の多さや、その実行力に驚く。そして私達の前に姿を現した女性芸術家達はいくつかの類型に整理することができる。それらの類型はまた彼女らをとりまく状況のことを映す鏡である。同じように、彼女らの業績が最近のフェミニスト美術史家の発掘作業を経なければ私達の目前に現われなかったことも、現代の私達の文化のありようをうつしだしているのだろう。今回は欧米の研究を紹介し、もちろん日本という地理的な位置から西洋を見透かすということを踏まえて私たちの置かれている状況を考えていきたい。

前号(No.35)の投稿文に答えて

北原恵さんへ

北沢杏子

学会ニュース35号('88、8月発行)の「海外ビデオ」紹介についての意見への返信。

まず、「NOT A Love STORY」は、70分→40分に再編集してあるので、90分→20分は間違い。Cutした場所は、主に日本では刑法175条にふれる性器や性毛がうつし出されている部分と、カナダの詩人の部分およびタイトルの部分です。

タイムコードをそのまま入れてあるのは、この再編集したビデオが営業行為でない(チケットを発売していない)ことを表明するため、40分にしたのは研修会の資料のためです。

日本語にふきかえてあるのは、経費のため。スーパーを入れると、スタジオ代(1時間4万円)+オペレーター料金が100万円はかかるでしょう。しかも、タダで見せるのですからペイできません。

ナレーター料も出ないから、私がナレーターをやっています。

著作権については、それぞれ了解済みです。

最後に、日本の女たちの作った作品がないことの無念さは私も同感ですが、カナダ国立フィルム庁(ケベック州)は、企画さえよければ映像作家にどんどん制作費を出しています。昨年会った大勢の女性作家たちは、企画書を提出し、国営テレビで流すことを条件にシリーズもの(例えば、インドの羊水検査、アフリカの女の割礼など)を作っていて、私は狭いプロダクションオフィスで長時間見せてもらいました。ケベック州はフランス語が公用語とあって、その文化をアピールするために公的な資金が出るのだとのことでした。

日本の女性映像作家が育たないのは、このあたりに理由がありそうな気がします。ともあれ、あなたもわたしも、がんばってフェミニズムの視点から映像を作っていきましょう。

なお、'89、6月に皆さんにおみせできるは、「BOARD AND CARE」(知能遅滞者ふたりの恋)です。やはり経費の面で、日本語ふきかえとなりますが、文句をいわないでね。

秋季大会へのご案内

秋季大会は、仁徳~~皇~~陵で有名な大阪府堺市にある大阪女子大学で開催することになりました。テーマは“フェミニズムの原点に立ち戻って”。ひとりひとりの私、私達が女性学を媒体につながり、女性の解放に向けて前向きに進んでいくことを確認したいと思います。年2回の全国会員の集う場です。プログラムも参加者のかたからのご意見をもとに、大幅にかたちを変えました。非会員の方も誘いのうえ、多数ご参加ください。

日程 1988年11月26日(土)、27日(日)
 会場 大阪女子大学 大阪府堺市大仙町
 TEL.0722-22-4811
 参加費 非会員のみ500円(各日)

プログラム

- 第1日 11月26日(土)
- 12:30 受付開始
 - 13:00 開会 会員個人研究発表(30分ずつ)
 司会・内藤和美
 - ①河野貴代美 「セクシュアリティの深層」
 - ②田中由布子 「女性と開発」
 - ③深沢純子 「女性芸術家の歴史」
 - 14:30 各分科会ごとに討論
 - 16:00 各分科会からの報告、総合討論
 - 17:00 (終了)
 - 17:30 懇親パーティー
 - 19:30 (パーティー終了後、公開幹事会)
- 第2日 11月27日(日)
- 10:00 シンポジウム
 「日本の文化的土壌とフェミニズム
 ——フェミニズムの原点に立ち戻る」
 シンポジスト 田嶋陽子 船橋邦子 國信潤子
 司会 篠かおる
 (休憩時間 12:00 — 13:00)
 - 15:00 総会及び、学会の活動、運営に関する話し合い
 (公開)
 - 17:00 閉会

会場への交通

阪和線「百舌鳥駅」より徒歩西へ13分
 南海高野線「堺東駅」より徒歩南へ18分
 南海高野線「堺東駅」より南方面行きバス「賑町」徒歩3分
 (案内図参照)

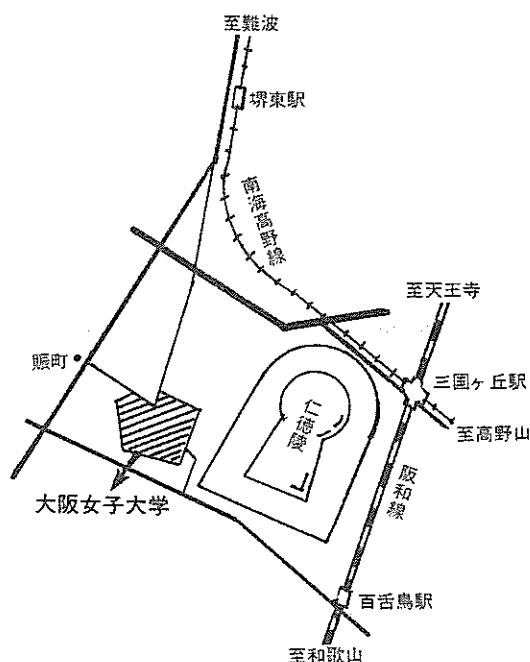
会場周辺は不便なため、ご希望の方には、26日の宿泊、27日の昼食(仕出し弁当)を現地の事務局で一括して手配致します。同封はがきにて必要事項を明記のうえ、11月15日必着でお申し込みください。前泊、後泊のご希望がありましたらその旨を明記してください。

宿泊場所 ホテル・サンルート堺
 (堺市少林寺西1-1 会場よりバス約10分)
 シングル 5,500円
 ツイン 5,000円(1人)
 申し込まれたかたには、詳しい地図をお送りします。
 その他 懇親会参加費 約1,000円
 27日昼食代 約 500円

[現地事務局]

[関東地方世話人]

会場案内図



このページをコピーして、非会員の方への呼びかけにご利用下さい。

幹事会ニュース

9月11日(日) 11:00~18:00

法政大学80年館

〔出席者〕井上、加藤、亀山、河野、北沢、桑原、田嶋
内藤、中安、深沢、船橋

議事概要

- ①秋季大会の件 1、2、3 ページ参照
- ②前回の幹事会で「総会を原則として廃止する」とした件について、日本女性学会規約にもとづき、幹事会には総会を廃止する権限はないという当日の欠席者桑原さんの指摘があり、この決定は無効とする。「総会」の今後のありかたについて、幹事会は、現在の不十分なたちをより活性化、合理化する方向を深ること。
- ③井上輝子幹事より、諸条件の理由により'89年3月末まで幹事を休みたいとの申し入れがあり、これを承認した。
- ④日本学術会議事務報告
 - ・本会より会員選出候補者として推薦した藤枝渚子氏は会員推薦管理会での資格審査不認定となる。
 - ・第14期日本学術会議第1部社会学部連絡委員として桑原系子氏を推薦し、届出した。
- ⑤次回幹事会は11月13日(日) 11時~17時
法政大学80年館

寄贈資料(『』は書籍)

『ひらかれた性教育 4 15歳から18歳まで』
アーニ出版 北沢杏子(会員)
『月刊 婦人展望』8月号 市川房枝記念会
『婦人教育情報』18号 国立婦人教育会館
『婦人情報』24号 新宿区婦人情報センター
『全国婦人新聞』785号 全国婦人新聞社

会員の異動 '88 7/8~10/10

再入会

新入会

住所変更

Information

広告ウォッチングプロジェクトよりの報告

ひとりでもできる、みんなでもできるアクション用のメッセージステッカーの第1弾「これは女性差別です。」は、おかげさまで大・中・小合計約一万枚を、ほぼ完売しました。ご協力ありがとうございました。勇気を出して貼ったとき、自分の中に何かが起るのがわかりました。8月13日には、渋谷、新宿駅周辺を、有志でフィールド・サーベイをし、8月26日の婦人民主新聞にもとりあげられました。しかし、あとからあとから出てくる差別広告。東京の営団地下鉄の外国人向けの英文ポスターは、ハイヒールをはき両足を大きく開いた脚のみ。

第1弾の増刷と第2弾「女をなめるな!!」もあわせてできあがりしました。両方とも、宮下佳子さん(グラフィックデザイナー)の全面的なご協力を得ました。紙面を借りて御礼申し上げます。秋季大会でも、体験話の交換や今後の運動について話し合いたいと思っています。

ステッカーの代金は次のとおり

大・中・小3種類10枚ずつセット 1000円

(送料は別に240円程度)

これは女性差別です。

編集後記

とにかく秋季大会を少しでも実りあるものにしたと幹事一同ハリキッています。

今年6月モンリオールで開かれたフェミニスト・ブック・フェアでは「ヒストリー」でもなく「ハーストリー」でもない「メモリー」という言葉が繰り返し使われたことを思い出しています。

男たちが語った「学問の客観性」の嘘を女であることを原点に自分の中の「メモリー」を蘇返らせてみたいと思っています。

万難を排して(チョット古い)堺まで足を運んで下さい。新しい出会いがあるかもしれません。(K.F)